



相馬庸郎先生著作目録

林原, 純生
西村, 好子
金岡, 直子

(Citation)

國文論叢, 52:17-35

(Issue Date)

2017-03-31

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/E0041336>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/E0041336>



相馬庸郎先生著作目録

林 原 純 生
西 村 好 子
金 岡 直 子

序・凡例

相馬庸郎先生のお通夜の後、三人の話の中に先生の著作目録を作ろうということが話題になり、おのおの調査の結果を持ち寄ってここに先生の著作目録ができあがりました。相馬佐紀子夫人からは主に「マスト」に関する資料をご提供いただきました。中尾務氏からは「C A B I N」に掲載された先生のエッセイのご教示を得ました。この場をかりて御礼申し上げます。お陰様ではば網羅的な先生の著作目録ができたかと考えます。

目録の配列は発行年月日の順に整理しました。発行日の記載のないものは、確認が取れていないものです。発表誌「」でくくった物は定期刊行物、「』」は単行本を表します。

先に書いたように、この著作目録は三人の共同作業によって成ったものですが、最終的な体裁を整えたのは、目録作成を言い出した私（林原）です。誤りや脱漏の責任は私にあります。

本目録の誤りや脱漏についてお気づきのことがあればご一報ください。

相馬庸郎先生のご逝去のあと、「AMAZON」(No.476、二〇一六年三月二〇日発行)、「マスト」(三五号、二〇一六年三月発行)が、相馬庸郎先生の追悼特集号として刊行されていることを最後に付記しておきます。

相馬先生略歴

一九二六年八月三〇日
一九四二年二月

新潟県北蒲原郡中条町（現・胎内市）生まれ
新潟県立新発田中学校四年修了

一九四五年八月 海軍経理学校卒業
 一九五四年一〇月 法政大学文学部日本文学科（通信教育）卒業
 一九六一年三月 東京都立大学大学院博士課程修了
 一九六二年～一九六七年 東京都立大学付属高等学校国語科教諭
 一九六七年～一九七五年 神戸大学教育学部助教授
 一九七五年～一九八七年 神戸大学文学部教授
 一九八七年三月三十一日 神戸大学文学部退職

神戸大学在職中より同人雑誌「AMAZON」「マスト」「風」などに参加し、阪神間の文学の地下水脈を支える。また、退職後も神戸大学文学部国語国文学会研究部に精力的に出席。懇親会には二〇〇三年まで参加し、多くの学生・研究者が薫陶を受けた。

二〇〇一年 『深沢七郎 この面妖なる魅力』にて「平成12年度第9回やまなし文学賞―研究・評論部門―」受賞
 二〇一一年 脳梗塞にて倒れる
 二〇一五年九月二日 ご逝去（八九歳）

相馬庸郎先生著作年譜

番号	題名	発表誌	発行月日	発行所・出版社	備考
昭和34年（一九五九）					
1	『欺かざるの記』前篇研究―主体の内部構造―	『日本文学』8巻1号	1月1日	日本文学協会	後『日本自然主義論』に収録。
2	柳田国男と自然主義	『会報』5号	11月	近代日本文学会	近代日本文学会秋季研究発表会（11月28日、於て東京大学）での発表の活字化か。
昭和35年（一九六〇）					

3	「ローマ字日記について」―啄木ノート―	『日本文学』9巻2号	2月1日	日本文学協会	後『日本自然主義論』に収録。また『啄木全集第八巻 啄木研究』（昭和43年2月29日、筑摩書房）に再録。
4	座談会「近代の超克」の一つの教訓 ―「職人」の論理―	『日本文学』9巻4号	4月1日	日本文学協会	「時評」欄
5	田山花袋の「実行と芸術」	『国文学』解釈と教材の研究「5巻10号	8月20日	學燈社	後『日本自然主義論』に収録。
6	国崎望久太郎著『啄木論序説』	『日本文学』9巻8号	8月1日	日本文学協会	書評 国崎望久太郎『啄木論序説』は昭和40年5月10日、法律文化社刊
7	民俗学以前の柳田国男―明治四十二年までの著作年譜―	『民話』24号	9月1日	未来社	民話の会編
8	柳田国男―主体形成期の探求―	『国文学』解釈と鑑賞「25巻12号	10月5日	至文堂	後『日本自然主義論』、『柳田国男研究』（神島二郎編、昭和48年3月20日、筑摩書房）に収録。
昭和36年（一九六二）					
9	柳田民俗学の文学性	『文学』29巻1号	1月10日	岩波書店	後「現代のエスプリ」（昭和47年4月1日、至文堂）に再録、「『遠野物語について』と改題して『柳田国男と文学』」に収録。
10	神島二郎著『近代日本の精神構造』	『日本文学』10巻9号	10月1日	日本文学協会	書評 神島二郎『近代日本の精神構造』は昭和36年2月2日、岩波書店刊
昭和37年（一九六二）					
11	明治文学研究の当面する課題―『座談会・明治文学史』をめぐる―	『日本文学通信』	3月1日	日本文学協会 東京都立大学支部	後「明治文学研究の現状」と改題して『日本自然主義再考』に収録。
12	平面描写私見	『会報』14号	11月	日本近代文学会	9月22日の例会報告。
昭和38年（一九六三）					
「文学」と「思想」のつながりの内面					

25	24	23	昭和40年（一九六五）			22	21	20	19	18	17	16	昭和39年（一九六四）			15	14	13
それから	想 谷沢永一著『近代日本文学史の構 想』	梶井基次郎『檸檬』				尚江文学の方法	近代文学研究における「都市と農 村」の問題	学（の部） 討論3（第十九回大会報告・文 学）	啄木『ローマ字日記』論拾遺―形象 性・主題・その他―	梶井基次郎・序説	自然主義文学のグループ―日本自 然主義思潮の諸相―	安田武者『戦争体験』				「平凡」をどう評価するか	田山花袋の「平面描写」	構造―『日本文学』二月号について
「国文学 解釈と教 材の研究」10巻10号	「日本文学」14巻5号	「日本文学」14巻1号				「都大論究」4号	「日本近代文学」1集	「日本文学」13巻8号	「国文学 解釈と教 材の研究」9巻10号	「橋本佳先生還暦記 念文集」	「国文学 解釈と教 材の研究」9巻3号	「日本文学」13巻1号				「国文学 解釈と鑑 賞」28巻6号	「季刊 文学・語学」 27号	「日本文学」12巻3号
8月20日	5月1日	1月1日				12月10日	11月1日	9月1日	8月20日	5月30日	2月1日	1月1日				5月1日	3月15日	3月1日
學燈社	日本文学協会	日本文学協会				東京都立大学国 語国文学会	日本近代文学会	日本文学協会	學燈社	佐藤喜一編、文 集刊行会	學燈社	日本文学協会				至文堂	全国大学国語国 文学会	日本文学協会
「共同研究 夏目漱石の作品研究」欄、後「そ れから」論」と改題して『日本自然主義再考』に	書評 谷沢永一『近代日本文学史の構想』は昭 和39年11月1日、晶文社刊	〈特集〉文学教材研究号				後『日本自然主義論』に収録。	「視点」欄 後『日本自然主義論』に収録。	報告者 大石修平 議長 玉井敬之 相馬庸 郎	後『日本自然主義論』に収録。		後「日本自然主義思潮の諸相」と改題して『日 本自然主義論』に収録。	書評論文 安田武『戦争体験 一九七〇年の 遺書』は昭和38年7月25日、未来社刊 後「日本自然主義思潮の諸相」と改題して『日 本自然主義論』に収録。				後『日本自然主義論』に収録。	後『日本自然主義論』に収録。	「ばっく・みらあ」欄

36	昭和43年(一九六八)	35	34	33	32	31	30	29	28	昭和41年(一九六六)	27	26
山羊の歌(4)——中原中也——(現代詩の鑑賞・四) 名編の新しい評釈	「国文学 解釈と教材の研究」13巻1号	佐多稲子『水』	写生文小考	三好行雄著『島崎藤村論』	米田利昭著『土屋文明』	『徴』・その美について	和田謹吾著『自然主義文学』	和田謹吾氏著『自然主義文学』	生松敬三著『思想史の道標』	昭和41年(一九六六)	大岡昇平の「俘虜記」《教科書にとられた戦後文学の研究》	日本自然主義の「象徴派」的性格
		「国語科通信」	「国語科通信」	「文学」34巻10号	「日本文学」15巻9号	「季刊 文学・語学」40号	「日本近代文学」4集	「近代文学懇談会会報」35号	「日本文学」15巻4号		「国文学 解釈と教材の研究」10巻13号	「文学」33巻9号
1月20日		10月	9月25日	10月10日	9月1日	6月15日	5月1日	5月	4月1日		11月20日	9月10日
學燈社		明治図書	日本文学協会編	岩波書店	日本文学協会	文学会	全国大学国語会	日本近代文学会	日本文学協会		學燈社	岩波書店
執筆者として浅井清、越智治雄、佐藤善也、相馬庸郎、鳥居邦朗、橋本迪夫、畑有三、平岡敏夫の連名。凡例に「各詩篇の解析に関しては、二度にわたる全員討議のうえ分担して執筆し、その草稿を更に回覧訂正し			後『日本自然主義論』に収録。	書評 米田利昭『土屋文明 短歌の近代』は昭和41年2月20日、勁草書房刊	書評 後「三好行雄著『島崎藤村論』について」として『日本自然主義論』に収録。	後『日本自然主義論』に収録。	書評 和田謹吾『自然主義文学』は昭和41年1月25日、至文堂刊	書評 生松敬三『思想史の道標』は昭和40年1月、勁草書房刊	書評 生松敬三『思想史の道標』は昭和40年1月、勁草書房刊		後『日本自然主義論』に収録。	収録。

45	44	43	42	41	40	39	38	37	
主題の把握「冬の蠅」(梶井基次郎)	徳田秋声	高浜虚子―写生派小説の成立	山羊の歌(6)―中原中也―(現代詩の鑑賞・六) 名編の新しい評釈	近代文学の研究について―三好行雄氏と猪野謙二氏の近業をめぐって―	二葉亭・その「帝国主義」と文学	漱石の紀行―満韓とどころ―論	山羊の歌(5)―中原中也―(現代詩の鑑賞・五) 名編の新しい評釈	高浜虚子―写生派文学論―	
「国文学 解釈と教材の研究」13巻9号	「国文学 解釈と教 材の研究」13巻8号 臨時増刊号	「国語と国文学」45巻4号	「国文学 解釈と教 材の研究」13巻4号	「季刊 文学・語学」47号	「都大論究」7号	「国文学 解釈と教 材の研究」13巻3号	「国文学 解釈と教 材の研究」13巻3号	「文学」36巻2号	
7月20日	6月25日	4月1日	3月20日	3月15日	3月25日	2月20日	2月20日	2月10日	
學燈社	學燈社	至文堂	學燈社	全国大学国語国 文学会	東京都立大学国 語国文学会	學燈社	學燈社	岩波書店	
	「現代文学研究の手帳」号	「明治作家論」特輯号 後「鶏頭」論―俳句小説の成立」と改題して『子規・虚子・碧梧桐―写生文派文学論』に収録。		昭和42年度国語国文学界の展望特集、後「近代文学研究の動向」と改題して『日本自然主義再考』に収録。	後『日本自然主義論』に収録。	「漱石文学の人間像」特集		後『明治の文学』(昭和56年12月10日、有精堂出版株式会社)に収録、『『東京市』の意味』と改題して『子規・虚子・碧梧桐―写生文派文学論』に収録。	諸見解の統一をはかった。各評文の執筆者を記さないのは、解析のすべての責任が全員にあることを示す」とあり。

59	描写論	〔国文学 解釈と鑑賞〕35巻9号 7月	7月9日	至文堂	〔用例にみる近代文学史用語事典〕号
58	平岡敏夫著『日本近代文学史研究』	〔文学〕38巻3号	3月10日	岩波書店	書評 平岡敏夫『日本近代文学史研究』は昭和44年6月30日 有精堂刊
57	あとがき	〔日本自然主義論〕	1月25日	八木書店	単行本 近代文学研究双書
56	『日本自然主義論』		1月25日	八木書店	
昭和45年（一九七〇）					
55	大石修平著『泉鏡花論考』	〔文学〕37巻12号	12月10日	岩波書店	書評 大石修平『泉鏡花論考』は昭和43年10月30日、明治書院刊
54	『新生』試論	〔日本近代文学〕11集	10月20日	日本近代文学会	後『日本自然主義論』に収録。
53	念をめぐって―	賞〔34巻7号〕	7月1日	至文堂	後『日本自然主義の「自然」概念』と改題して『日本自然主義論』に収録。
52	文学史	〔文学概論〕	1月20日	有信堂	猪野謙二編 後『文学史の方法』と改題して『日本自然主義再考』に収録。
昭和44年（一九六九）					
51	静雄（現代詩の鑑賞・十四）	〔国文学 解釈と教材の研究〕13巻15号	12月20日	學燈社	
50	わがひとと与ふる哀歌（2）―伊東静雄（現代詩の鑑賞・十三）	〔国文学 解釈と教材の研究〕13巻14号	11月20日	學燈社	
49	小説『俳諧師』の位相―高浜虚子論	〔文学〕36巻11号	11月10日	岩波書店	後『俳諧師』の位相』と改題して『子規・虚子・碧梧桐―写生文派文学論』に収録。
48	近代文学者と「故郷」意識	〔日本文学〕17巻11号	11月1日	日本文学協会	第23回日本文学協会大会・文学の部シンポジウム「日本文学における近代」（特集）
47	わがひとと与ふる哀歌（1）―伊東静雄（現代詩の鑑賞・十二）	〔国文学 解釈と教材の研究〕13巻2号	10月20日	學燈社	
46	自然主義と現代	賞〔33巻11号〕	9月1日	至文堂	後『日本自然主義と現代』と改題して『日本自然主義論』に収録。

70	69	68	67	66	65	64	昭和47年（一九七二）		63	62	61	昭和46年（一九七一）		60	
蒲団・一兵卒解説	藤村集、並木、芽生の各項目	花袋再考―「時は過ぎゆく」を中心に―	鳥崎藤村―「大きな自然（おのずから）」の形象化―「夜明け前」について	注釈者あとがき	参考文献・年譜	重右衛門の最後、蒲団、生、インキ壺（抄）注釈	『日本近代文学大系 第19巻 田山花袋集』	『日本近代文学大系 第19巻 田山花袋集』	『家』について	『歌のわかれ』試論	報告1「家」をめぐる	『国文学 解釈と教材の研究』16巻5号	『国文学 解釈と教材の研究』16巻11号	高浜虚子論―大正二年前後―	臨時増刊号
『蒲団・一兵卒』	『島崎藤村事典』	『文学』40巻9号	『国文学 解釈と教材の研究』17巻7号	『日本近代文学大系 第19巻 田山花袋集』	『日本近代文学大系 第19巻 田山花袋集』	『日本近代文学大系 第19巻 田山花袋集』			『国文学 解釈と教材の研究』16巻11号	『国文学 解釈と教材の研究』16巻5号	『国文学 解釈と教材の研究』16巻5号			『文学』38巻10号	
12月16日	10月25日	9月10日	6月20日	6月10日	6月10日	6月10日	角川書店	角川書店	9月20日	5月1日	4月20日	日本文学協会	学燈社	10月10日	
岩波書店	明治書院	岩波書店	学燈社	角川書店	角川書店	角川書店			学燈社	日本文学協会	学燈社			岩波書店	
岩波文庫第43刷改版 後『蒲団』論として『日本自然主義再考』に収録。	伊東一夫編	後『時は過ぎゆく』論と改題して『日本自然主義再考』に収録。	『近代日本文学と（自然）特集 後『夜明け前』論』と改題して『日本自然主義再考』に収録。						後『家』論』と改題して『日本自然主義再考』に収録。		『島崎藤村と日本の近代』特集			後『東京市』の意味』と改題して『子規・虚子・碧梧桐 写生文派文学論』に収録。	

昭和48年（一九七三）										
71	詩人としての柳田国男―『雪国の春』を中心に―	『国文学 解釈と教材の研究』18巻1号	1月20日	學燈社	「柳田国男と折口信夫―日本人の原像を求めて」特集、後『雪国の春』について」と改題して『柳田国男と文学』に収録。					
72	日本的情念の陥穽―「日本回帰」ブームと心情ラディカリズム―	『現代の眼』14巻5号	5月1日	現代評論社	「日本知識人論」情念からの解放」特集 野口武彦氏との対談。					
73	三好行雄著『日本文学の近代と反近代』	『日本近代文学』18集	5月20日	日本近代文学会	書評 三好行雄『日本文学の近代と反近代』は昭和47年9月30日、東京大学出版会刊					
74	鷗外と自然主義―花袋との関係をめぐって	『国文学 解釈と教材の研究』18巻10号	8月20日	學燈社	「森鷗外と日本の近代特集 後『鷗外と自然主義』と改題して『日本自然主義再考』に収録					
75	もう一つのリアリズム―『ホトトギス』募集日記の持つ可能性―	『文学』41巻10号	10月10日	岩波書店	『明治文学全集 57 明治俳人集』（昭和50年10月30日、筑摩書房）に再録、後『写生文の持つ可能性』と改題して『子規・虚子・碧梧桐―写生文派文学論』に収録。					
76	柳田国男	『国文学 解釈と教材の研究』18巻16号 12月臨時増刊号	12月25日	學燈社	臨時増刊号『現代文学研究必携』。後補訂して『日本近代文学研究必携』三好行雄編、昭和52年1月31日、學燈社に再録。					
昭和49年（一九七四）										
77	漱石と写生文―もう一つのリアリズム・覚書―	『文学』42巻4号	4月10日	岩波書店	後『子規・虚子・碧梧桐 写生文派文学論』に収録。					
昭和50年（一九七五）										
78	気になること、二つ	『館報』23号	1月15日	日本近代文学館	『短信』欄掲載					
79	写生文の検討 正岡子規の場合	『国文学 解釈と鑑賞』別冊 現代文学講座 明治の文学Ⅱ	3月1日	至文堂	後『写生文の持つ可能性』と改題して『子規・虚子・碧梧桐―写生文派文学論』に収録。					
80	『田舎教師』論	日本の近代小説	4月		NHK教育TV 大学講座					

90	89	88	87	昭和54年（一九七九）		86	85	84	83	昭和52年（一九七七）		82	昭和51年（一九七六）		81
長谷川天溪——日本的現実主義者の内実——	日本現代文学年表	近代文学史と虚子——鷗外と虚子——	正宗白鳥			抱月論への二、三の視点	猪野謙二（1） 田山花袋（2） 橋本佳（3） 柳田国男（3） 近代文学と日露戦争（4）	子規と透谷	透谷と藤村			文学の改革者——正岡子規	昭和51年（一九七六）		『切抜帖より』
『神戸大学文学部三十周年記念論集』	『日本現代文学史（二）』	『俳句』28巻4号	『文学・1910年代』			『文学』45巻12号	『日本近代文学大事典』	『子規全集 第9巻』月報21	『シンポジウム日本文学15 島崎藤村』			『岩波講座 文学7 表現の方法4 日本文学にそくして下』	『名著復刻 漱石文学館 解説』		
10月15日	6月20日	4月1日	3月25日			12月10日	11月18日	9月20日	8月25日			5月10日	11月15日		
神戸大学文学部	講談社	角川書店	明治書院			岩波書店	講談社	講談社	学生社			岩波書店	財団法人 日本近代文学館		
後「長谷川天溪 思想展開——「変身」の内実」と改題して『日本自然主義再考』に収録。	『日本現代文学全集・別巻』	高浜虚子特集号、後「虚子と鷗外」と改題して『子規・虚子・碧梧桐——写生文派文学論』に収録。	後「白鳥文学と批評精神」と改題して『日本自然主義再考』に収録。			後「問題的文芸」と『観照』と改題して『日本自然主義再考』に収録。	（ ）内は巻数。		シンポジウムでの報告、シンポジウムの参加者は三好行雄、猪野謙二、佐藤泰正、相馬庸郎、十川信介。						

[illegible]

116	115	平成2年（一九九〇）				昭和64年～平成元年（一九八九）				110	109	昭和61年（一九八六）				108	107	昭和58年（一九八三）				106
柳田国男の二十歳代―民俗学への 出版を遠望しつつ―	柳田国男の風景論―『豆の葉と太陽』を中心として―	柳田国男初期の詩的感性―新体詩と詩的散文―				『海南小記』について―柳田国男ノート―				あとがき	『子規・虚子・碧梧桐―写生文派文学論』	『子規・虚子・碧梧桐―写生文派文学論』				柳田国男	藤村と柳田国男	勝本清一郎編 岩波書店刊『透谷全集』語句・固有名詞索引（下）				「神戸大学文学部紀要」9号
「日本文学」39巻2号	「マスト(檣)」10号	「日本文学」38巻12号				「マスト(檣)」9号				「子規・虚子・碧梧桐―写生文派文学論」		『近代作家研究事典』				『二冊の講座 島崎藤村 日本の近代文学4』	「二冊の講座 島崎藤村 日本の近代文学4」	「神戸大学文学部紀要」9号				
2月10日	2月10日	12月10日				1月15日				7月30日	7月30日	6月30日				6月30日	1月20日	3月15日				
日本文学協会	マストの会	日本文学協会				マストの会					洋々社	桜楓社				桜楓社	有精堂	神戸大学文学部				
後『柳田国男の二十歳代』と改題して『柳田国男と文学』に収録。	後『豆の葉と太陽』についてと改題して『柳田国男と文学』に収録。	後『柳田国男の詩的感性』と改題して『柳田国男と文学』に収録。				後『海南小記』についてと改題して『柳田国男と文学』に収録。												相馬研究室編				

130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	117
深沢七郎と政治	『柳田国男と文学』	「かさぶた式部考」論 秋元松代ノート	深沢七郎という人	『平成5年（一九九三） 癌と死と文学』	坪内稔典著『正岡子規―創造の共同性』	「常陸坊海尊」論―秋元松代論ノ―ト	柳田国男の魅力	藪禎子著『透谷・藤村・一葉』	大石修平さんのこと	秋元松代という人	柳田国男の昔話研究―その文学性について―	梶木剛著『柳田国男の思想』
『日本文学』43巻9号		『日本文学』42巻4号	『マスト(橋)』13号	『マスト(橋)』12号	『日本文学』41巻8号	『日本文学』41巻1号	『国文学』 解釈と鑑賞 56巻12号	『国文学』 解釈と教材の研究 36巻13号	『日本文学』40巻9号	『マスト(橋)』11号	『日本文学』40巻4号	『国文学』 解釈と教材の研究 35巻5号
9月10日	1月2日	4月10日	2月10日	12月1日	8月10日	1月10日	12月1日	11月20日	9月10日	7月10日	4月10日	5月20日
日本文学協会	洋々社	日本文学協会	マストの会	マストの会	日本文学協会	日本文学協会	至文堂	學燈社	日本文学協会	マストの会	日本文学協会	學燈社
後『深沢七郎 この面妖なる魅力』（平成12年		後『秋元松代 希有な怨念の劇作家』に収録。	エッセイ 随筆 「マスト(橋)」35号(平成28年3月刊、相馬庸郎先生 追悼特集)に再録。	エッセイ 随筆	書評・展望欄 坪内稔典『正岡子規―創造の共同性』は平成3年8月30日、リポート刊	後『秋元松代 希有な怨念の劇作家』に収録。	文学』に収録。	書評 藪禎子『透谷・藤村・一葉』は平成3年7月1日、明治書院刊	子午線欄		後『柳田国男の昔話研究』として『柳田国男と文学』に収録。	書評 梶木剛『柳田国男の思想』は平成11年12月25日、勁草書房刊

	140	139	138	平成8年（一九九六）	137	136	135	134	133	132	平成7年（一九九五）	131	
深沢文学の死と生の構図―「無妙	「風流夢譚」	「笛吹川」―	孤立する滅亡の文学―深沢七郎		年譜 解説	山頭火の散文	『蕨野行』―	識・「農」の思想―	柳田国男と島崎藤村―「家」意	森鷗外と柳田国男		『台風之眼』頌	
	「国文学 解釈と教材の研究」41巻9号 7月臨時増刊号	「風（ふう）」4号	海軍経理学校 第38期 のホームページ		『作家の自伝 25 田山花袋』	「俳句」44巻7号	「風（ふう）」3号	「マスト（檣）」15号	「国文学 解釈と教材の研究」40巻1号	「森鷗外研究」6		「風（ふう）」2号	
	7月10日	4月25日	平成8年		11月25日	7月1日	6月24日	3月25日	1月10日	1月1日		6月12日	
発行人 松本邦	學燈社	発行人 松本邦			タ 日本図書セン	角川書店	発行人 松本邦	マストの会	學燈社	和泉書院		発行人 松本邦	
後『深沢七郎 この面妖なる魅力』（平成12年	「現代幻想小説の読み方101」後『深沢七郎 この面妖なる魅力』（平成12年7月1日、勉誠出版）に収録。	後『深沢七郎 この面妖なる魅力』（平成12年7月1日、勉誠出版）に収録。	web上の投稿		シリーズ・人間図書館	「放浪の俳人―山頭火の生涯」特集			「山頭火と放哉―流転と遊戯」特集	「明治四十年代の鷗外」特集		7月1日、勉誠出版刊）に収録。 「ふう」は平成5年11月28日創刊の同人誌。創刊時の同人は井上卓也、押部佳子、尾末奎司、尾末幸子、木南修一、木村優子、北野和博、鞍本恵美子、小林一三、正垣堅四、高橋富子、中田雅久、中村玖美子、西村好子、東村節子、藤原将博、松本邦夫、山内舜一。	

153	152	151	150		149	148	147	146	145	144	143		142	141
海村の賦―私の祖父について―	私小説・祖母	海軍とマルクスと「セミ・バーজন」と	関西定例会		堀巖「閉鎖社会の処世マニュアル集」『葉隠』について	短剣のゆくえ	深沢七郎の「民話的リアリズム」	田山花袋の『遠野物語』評	大岡昇平の〈柳田〉ざらい	徳田秋声と古井由吉―〈荒涼と吹く風〉―	柳田国男『北小浦民俗誌』		渡辺淳一の性愛美学―『失楽園』をめぐって―	記「から」ちよっと一服、冥土の飛脚「へ」
「CABIN」1号	「マスト(橋)」18号	No.372 「AMAZON」	No.373 「AMAZON」		No.371 「AMAZON」	No.369 「AMAZON」	「マスト(橋)」17号	16 「花袋研究学会々誌」	4巻 月報6 「柳田国男全集 第4巻」月報6	9巻 月報2 「徳田秋声全集 第9巻」月報2	「日本文学」56巻61号		「マスト(橋)」16号	「風(ふう)」5号
3月3日	3月1日	1月20日	3月20日		11月20日	7月20日	3月1日	3月31日	3月25日	1月18日	9月10日		2月25日	1月15日
編集・発行 中	マストの会	AMAZON発行所	AMAZON発行所		行所 AMAZON発	行所 AMAZON発	マストの会	花袋研究学会	筑摩書房	八木書店	日本文学協会		マストの会	夫
エッセイ	小説	小説 1997年1月号の例会記録に相馬庸郎が新会員となったとあり。	愛した。 小説 1997年1月号の例会記録に相馬庸郎が新会員となったとあり。		エッセイ「例会通信」欄。	小説、「AMAZON」は1962年に尼崎に発足した同人誌。					「読む」欄			7月1日、勉強出版刊に収録。

166	165	164	平成13年(1001)	163	162	161	160	159	平成12年(1000)	158	157	156	155	154	尾務
人シリーズ 第七回 田山花袋	明治の文豪たちに乾杯！ 能開の	観能「恋の重荷」		ダブル「不倫」	『深沢七郎 この面妖なる魅力』	『白鳥文庫』物語	ホットイテ！	「檜山節考」論―近代主義と民話的迫真性―		共生(ミット・レーベン)	猪野謙二先生追慕―僕にとっての同時代文学―を中心に―	「私の小説・他」私見	行き暮れて小説創作へ	「笈の話」―『リアリスチックシンボリズム』の最尖端	
号	「能力開発21」22巻7	「風(ふう)」8号		No.383 「AMAZON」	No.380 「AMAZON」	「MAST(橋)」19号	「資料と研究 第5輯」			No.378 「AMAZON」	「国文論叢」27号	No.377 「AMAZON」	No.376 「AMAZON」	「国文学 解釈と鑑賞」64巻6号	
7月1日	6月10日	3月23日		9月20日	7月1日	3月20日	3月1日	1月31日		11月20日	2月15日	9月20日	8月12日	6月1日	
発協会	中央職業能力開発協会	発行人 松本邦夫		行所 AMAZON発	勉誠出版	行所 AMAZON発	MASTの会	山梨県立文学館		行所 AMAZON発	神戸大学文学部 国語国文学会	行所 AMAZON発	行所 AMAZON発	至文堂	
	書評 岩本由輝『柳田民俗学と天皇制』は平成4年12月1日、吉川弘文館刊。			小説		小説	小説	後「深沢七郎 この面妖なる魅力」に収録。		小説	猪野謙二先生追悼小特集号への寄稿	エッセイ	エッセイ	「梶井基次郎を読む―作品を読む」特集	

179	秋元松代―若い日の孤絶	「マスト(橋)」23号	2月10日	マストの会	一部改稿して『秋元松代 希有な怨念の劇作
平成16年(二〇〇四)					
178	安見児物語	No.399 「AMAZON」	5月20日	行所 AMAZON発	小説
177	四人の先達	「風(ふう)」11号	4月15日	発行人 松本邦夫	随想 本号の同人名簿に相馬庸郎の名あり。
176	伊平治伝と『マニラ瑞穂館』	「マスト(橋)」22号	3月16日	マストの会	
175	時空を越えて	「風(ふう)」10号	3月1日	発行人 松本邦夫	随想
174	嘱託教授たちの印象	海軍経理学校 第38期のホームページ	平成15年		web上に掲載
平成15年(二〇〇三)					
173	実録小説 師とその「弟子」	No.396 「AMAZON」	11月20日	行所 AMAZON発	小説 編集後記に相馬庸郎が編集委員の一人となっており。
172	堀巖著『百日紅堂漫筆』	No.393 「AMAZON」	5月20日	行所 AMAZON発	書評 堀巖『百日紅堂漫筆』は平成13年12月1日、沖積社刊
171	米田幸子編『追悼 米田利昭』	「日本文学」51巻3号	3月10日	日本文学協会	書評 米田幸子編『追悼 米田利昭』は平成13年7月31日、短歌研究社刊
170	天皇制と特攻―城山三郎の著作をめぐる―	「風(ふう)」9号	3月10日	夫 発行人 松本邦	
169	「天才アラキー」私見	「マスト(橋)」21号	3月1日	マストの会	エッセイ
平成14年(二〇〇二)					
168	「事実」の時代―明治3、40年代別見―	「国文論叢」31号	12月1日	神戸大学文学部 国語国文学会	タイトル原文ママ
167	多田さんの「白」	No.388 「AMAZON」	7月20日	行所 AMAZON発	追悼文

192	191	平成19年（二〇〇七）	190	189	188	187	186	平成18年（二〇〇六）	185	184	183	平成17年（二〇〇五）	182	181	180	
片岡良一先生のことども	「不条理」世界への帰結点―対話劇 「黒よりも黒く」		老いたるアダム	宮沢賢治と柳田国男	異界としての現代―日野啓三「梯 の立つ都市」―	松本さんの魅力	「無」と宇宙的な光―日野啓三「雲 海の裂け目」		「意識」の造型―日野啓三「東京タ ワーが救いだった」	「深層の現実」の発見―日野啓三 ノート―	「秋元松代 希有な怨念の劇作家」 「深層の現実」の発見―日野啓三 ノート―		種田山頭火の随筆	「秋元松代 希有な怨念の劇作家」	たまゆら女抄	
「日本文学誌要」75	「マスト(橋)」26号		No.420 「AMAZON」	No.418 「宮沢賢治」17号	No.418 「AMAZON」	「風(ふう)」13号 松 本邦夫追悼号	「マスト(橋)」25号		No.414 「AMAZON」	No.412 「AMAZON」	「日本近代文学」72集		「国文学 解釈と鑑 賞」69巻10号	No.406 「AMAZON」		
3月24日	2月10日		11月20日	10月1日	7月20日	4月20日	2月26日		11月20日	7月20日	5月15日		10月1日	8月10日	7月20日	
会 法政大学国文学	マストの会		行所 AMAZON発	洋々社	行所 AMAZON発	発行人 尾末奎 司	マストの会		行所 AMAZON発	行所 AMAZON発	日本近代文学会		至文堂	勉誠社出版	行所 AMAZON発	
			小説	「特集ジョバンニ」号		「風(ふう)」はこの号が終巻号。					執筆ノート欄		特集 種田山頭火の世界		小説	
																家』に収録。

201	深夜のパン食	「マスト(櫓)」31号	3月	マストの会	エッセイ 発行日記載なし
200	平成24年(二〇一三) 下り坂の風景	No.450 「AMAZON」	11月20日	AMAZON発 行所	随筆
199	平成23年(二〇一二) 森田進という人	No.443 「AMAZON」	9月20日	AMAZON発 行所	控室欄
198	酒場にて	No.443 「AMAZON」	9月20日	AMAZON発 行所	小品集欄
197	『日野啓三 意識と身体の作家』		6月25日	和泉書院	近代文学研究叢刊
196	吉保知佐著『短編小説集 小匣』	No.441 「AMAZON」	5月20日	AMAZON発 行所	書評 吉保知佐『短編小説集 小匣』は平成22年2月、近代文藝社刊
195	平成22年(二〇一〇) 跋文	「猪野謙二 初期学芸文集―若き日の片影―(藤原将博編)」	8月3日	藤原将博	
194	平成21年(二〇〇九) 命根(めいこん)	No.431 「AMAZON」	9月20日	AMAZON発 行所	小説
193	平成20年(二〇〇八) 何かが壊れて行く―日野啓三 小説「大塩湖から来た女性」	「マスト(櫓)」27号	3月5日	マストの会	

(りんばら すみお／神戸大学名誉教授)
(にしむら よしこ／神戸女子大学兼任講師)
(かなおか なおこ／神戸松蔭女子学院大学キャリアサポートセンター)